

令和6年度 学校評価報告書（目標設定）

令和6年5月24日

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○カリキュラムマネジメントを進め、「わかる」「できる」「伝わる」力の育成を目指す。	①一人一台端末の整備とICT活用を進め、育てたい力を明確にした指導計画による授業実践・授業改善に取り組む。	①ICT活用のための研修や基盤整備を進める。 ①単元配列表と年間指導計画の統合整理を行い、カリキュラムマネジメントを明確に進める。	①ICT活用のための研修や基盤整備が進んだか。 ①各種書式の見直しにより、系統的な計画と実践が進展したか。
2	児童・生徒 指導・支援	○児童生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズを的確に把握し、支援・指導を組織的に行う。	①アセスメントに基づいた個のニーズに応じた支援・指導に組織的に取り組む。	①アセスメントの意義と活用の理解を図るとともに、「輝く座間支援の子どもたち」を通じて多角的な支援・指導に取り組む。	①アセスメント活用が組織的に推進できたか。多角的な支援・指導に取り組めたか。
3	進路指導・ 支援	○一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現を支援する。	①自立や生活の充実のための自己決定・選択力や意思表示力を育成するとともに、本人保護者と適切な進路情報を共有する。	①小中高のそれぞれの段階に応じた進路に係る支援・指導に取り組むとともに、ニーズに応じた情報を提供し、共有化を図る。	①早い段階から進路を意識した系統的な取組ができたか。
4	地域等との 協働	○地域との連携及び地域資源を活用した教育活動を積み重ね、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ○センター的機能を充実させるとともに交流及び共同学習を進め、インクルーシブ教育を推進する。	①近隣小学校・高校との交流や、地域資源の活用、関係機関との連携を推進する。 ②センター的機能の充実を図り、インクルーシブ教育推進について理解啓発を図る。	①入谷小、座間高、分教室設置校との児童生徒交流や職員交流研修を積み重ねる。 ②学校全体でセンター的機能における支援力を向上させるとともに、切れ目ない支援部会の活動等によりインクルーシブ教育の理解啓発を図る。	①近隣校との交流による連携が深化したか。 ②地域と連携したインクルーシブ教育の理解啓発が図れたか。
5	学校管理 学校運営	○安心で快適な教育環境整備を進め、組織的・計画的な学校安全管理を推進する。 ○組織的な学校運営と校務の効率化を図り、児童生徒と向き合うための時間を確保するとともに、不祥事・事故防止に努める。	①緊急事態に対応する訓練を充実させるとともに、地域一体となった防災体制を構築する。 ②業務のスリム化を推進し、働きやすい職場環境をつくることにより、事故の未然防止、不祥事ゼロを達成する。	①各種の緊急事態を想定した訓練を実施し、防災部会の活動等による地域と協働した安心安全な教育環境を整備する。 ②業務スクラップ検討を行い、スリム化を断行する。また同僚性の向上等により余裕をもって業務遂行することで事故・不祥事の防止に努める。	①関係機関と連携し安心安全な教育環境を整備できたか。 ②業務スリム化が具体的に進展したか。また事故の未然防止、不祥事ゼロを達成できたか。